

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520447

研究課題名(和文)中国シェイクスピア受容史の基礎的研究 - 民国期を中心に

研究課題名(英文)Basic Research on the History of the Reception of Shakespeare in China:With a Focus on the Republican Period

研究代表者

瀬戸 宏 (SETO, Hiroshi)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：80187864

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円、(間接経費) 1,080,000円

研究成果の概要(和文)：民国期中国シェイクスピア受容史上での三つの重要公演に焦点を絞って研究した。上海戯劇協社『ヴェニス商人』(1930)、上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』(1937)、国立劇専『ハムレット』(1942)について調査し、三公演それぞれを主題に全国学会で報告した。上海戯劇協社『ヴェニス商人』公演、国立劇専『ハムレット』公演についてはすでに論文化した。上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演は瀬戸の体調不調などで論文の完成が遅れたが、近く公開できる見通しである。これ以外に中国シェイクスピア受容史黎明期の問題で論文執筆・公開し、関連内容で、中国の学会で報告した。

研究成果の概要(英文)：I undertook research that focused on three important performances in the history of the reception of Shakespeare in China during the Republican period. I examined the performance of The Merchant of Venice by the Shanghai Theatre Association in 1930, the performance of Romeo and Juliet by the Shanghai Amateur Experimental Drama Troupe in 1937, and the performance of Hamlet by the National Drama School in 1942, and I presented papers on each of these performances at conferences in Japan. The papers on the Shanghai Theatre Association's performance of The Merchant of Venice and National Drama School's performance of Hamlet have already been published. The completion of the article on the Shanghai Amateur Experimental Drama Troupe's performance of Romeo and Juliet will be published in the near future. In addition, I have also presented a paper on a related subject at a conference in China.

研究分野：各国文学・文学論

科研費の分科・細目：比較文学

 キーワード：シェイクスピア 中国話劇 上海戯劇協社 国立劇専 上海業余実験劇団 ヴェニス商人 ハムレット  
 ト ロミオとジュリエット

## 1. 研究開始当初の背景

シェイクスピア作品が、世界文学史、世界演劇史の中で最も重要な作品群の一つであることはいうまでもない。シェイクスピア作品は、彼の母国イギリスや英語文化圏以外の国でも積極的に受容された。中国においても同様である。中国ではシェイクスピアは莎士比亞と表記する。中国におけるシェイクスピア受容史の研究を通して、中国近現代文化の特質を明らかにすることができるといえよう。日本での受容史研究では、河竹登志夫『日本のハムレット』(南窓社 1972)などこの面での成果がすでに現れ、重要な学術成果として認められている。

しかし、中国におけるシェイクスピア受容史研究はその意義の大きさに比べて進んでいるとはいえない。その理由として、二十世紀中国現代文学、中国現代演劇の主流は中国共産党と密接な関係があった左翼系作家・芸術家が主流であり、問題提起性を含んだ作品が重視され、シェイクスピア作品は主流からはずれた作家・芸術家によって主に受容されてきたことがあげられるであろう。これらの作家・芸術家は国民党と関係がある場合も多く、中華人民共和国建国以後は研究そのものが一つのタブーとなったのである。近年、過去の研究状況に対する反省から、孟憲強『中国莎学簡史』(東北師範大学出版社 1994)などの研究成果も現れているが、まだ表面的なものに留まっているといわなければならない。特に中国で実際に上演されたシェイクスピアの舞台成果についての研究がそうである。

瀬戸宏は、早大大学院修士課程中国文学専攻在学中から中国近現代演劇に関心を持ち、修士論文「中国近代劇の誕生」(1978)以来中国近現代演劇史研究に従事してきた。瀬戸宏の研究は中国近現代演劇史全般におよぶものであるが、2003年にはそれまでの研究成果のうち、主に話劇の成立過程に関する部分を博士学位請求論文「中国話劇成立史研究」にまとめ、早稲田大学より博士(文学)の学位を授与され、2005年には同学位論文を改訂して『中国話劇成立史研究』として東方書店より刊行した。同書は研究界から高い評価を受け、2006年には前年度の優れた演劇研究書に与えられる日本演劇学会河竹賞を受賞した。

瀬戸宏は、早大大学院修士課程在学中から河竹登志夫教授の講義を受講し、アジアにおけるシェイクスピア受容史にも関心を持った。2002年には『シアターアーツ』11号に「中国のシェイクスピア受容略史」を発表した。同論文は、清末から二十世紀末までの中国シェイクスピア受容の概略を約8000字で述べたもので、今日まで日本語で書かれた最も詳しい中国シェイクスピア受容史である。『中国話劇成立史研究』にも部分的ではあるがシェイクスピア受容研究の成果が反映されている。瀬戸宏は、同書刊行後

も中国シェイクスピア受容史を引き続きおこない、研究成果をあげた。2008年11月には、中国・武漢大学で開催されたシェイクスピア国際学術シンポジウムに参加し中国語で論文発表をおこない、高い評価を得た。しかし、シェイクスピア受容史研究の重要性からみると瀬戸宏のこれまでの研究はまだ初歩的かつ部分的なものにすぎなかった。

## 2. 研究の目的

(1) 中国における本格的なシェイクスピア受容は二十世紀初頭から始まり、二十一世紀の今日までおよんでいる。中国シェイクスピア受容史研究にはまだ空白が多いが、今回の研究では、総花的な研究は避け民国期のシェイクスピア作品上演の分析に焦点を絞った。民国期のシェイクスピア上演の中で大きな意味を持つ次の三上演を選び、分析する。

(2) 中国最初の本格的シェイクスピア上演となった上海戯劇協社『ヴェニスの商人』公演(1930)。

上海戯劇協社は1924年にオスカー・ワイルド『ウイダミア卿夫人の扇』を翻案した『若奥様の扇』(《少奶奶的扇子》)上演により中国で話劇と呼ばれる演劇形態を確立させた劇団として知られている。その劇団がなぜ『ヴェニスの商人』を上演演目として取り上げたか、その舞台の特質はどうであったか、中国最初の本格的シェイクスピア作品上演の反響はどうであったかを解明する。

(3) 積極的な商業公演としておこなわれた1937年4月の上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演。

上海業余実験劇団は、上海業余劇人協会が発展して結成された劇団である。業余とは映画撮影の業余の意味で、名称から受ける印象とは異なり、プロ(専業)俳優の劇団である。1937年4月という、日中戦争勃発直前の上海市民社会が最も成熟した時期におけるシェイクスピア作品上演の意味と成功の原因を分析した。この公演は、演出家の章泯がスタニスラフスキー・システムを活用したとされており、この面の分析にも注意を払った。

(4) 民国期シェイクスピア上演の画期となった国立劇専『ハムレット』公演(1942)。

国立劇専は正式名称を国立戯劇専科学校といい、1935年に創立された民国期中国唯一の国立演劇学校である。創立時の名称は国立戯劇学校で、1940年に国立戯劇専科学校となった。この公演の演出家は焦菊隱であるが、焦菊隱は後に北京人民芸術劇院第一副院長、首席演出家(総導演)を務め、老舍『茶館』(1958)などを演出し、北京人民芸術劇院の風格確立に決定的な役割を果たした演劇人として知られている。焦菊隱らがなぜ『ハムレット』を取り上げたか、その反響はどのようなものであったかを明らか

にする。この公演は、抗日戦争期の時代特徴を強く帯びた上演と言われているが、分析にあたっては時代との関連にも注意を払った。

### 3. 研究の方法

(1) 基礎は文献資料研究である。その収集と析を通して、研究目的で挙げた中国シェイクスピア受容史で重要な位置を占める三上演の様相を再現していく。

(2) 文献資料研究では、特に新聞広告、劇評と上演内容が明らかになる資料の収集・分析を重視する。

(3) 同時に上演の主体となる劇団、上演団体動向分析もおこなう。

(4) 演出家の存在は二十世紀中国演劇の重要特徴であり、演出家研究もおこなう。

(5) 中国現代演劇の文献資料には、中国でなれば入手できないものも多いため、中国現地調査を重視する。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究成果の概要

日本の研究会、学会で、研究目的で挙げた3つの民国期シェイクスピア上演に関してそれぞれ口頭発表をおこなった。

上記の口頭報告を順次日本語で学術論文文化していった。

中国語圏の各種学会で中国シェイクスピア受容史に関する口頭発表を中国語でおこなった。

中国語の学術雑誌に、の口頭発表の内容を論文文化して発表した。

(2) 1930年の上海戯劇協社『ヴェニスの商人』公演に対する研究。

この公演についての研究成果は、「上海戯劇協社『ヴェニスの商人』上演をめぐる」(『演劇学論集 日本演劇学会紀要』57)にまとめられている。

同公演に関する新聞報道・劇評などを整理し、戯劇協社がなぜ『ヴェニスの商人』の上演を決意したか、その経過と上演に対する反応はどうであったかを分析した。戯劇協社は『若奥様の扇』上演後、試行錯誤を重ね、欧米古典劇を上演することで立ち直りを目指したこと、その上演はそれまでの戯劇協社上演演目とは異なり、翻案劇ではなく厳格な翻訳劇であることを明らかにした。この公演は、シェイクスピア上演としてだけではなく、中国話劇史からみても、もっとも早い翻訳劇上演の一つであった。戯劇協社自身も、『ヴェニスの商人』に止まらず引き続きシェイクスピア作品上演を続けていくことを望んでいたことも明らかになった。

新聞報道・劇評等の分析により、公演に対する反応は概して良く、再演もされており、公演は成功であったが、同時に1930年当時の知識階層の思想状況を反映して、左翼思想の立場から公演に反対する意見もあった

ことを明らかにした。

公演終了後、戯劇協社は予告したシェイクスピア作品上演を行ってなかった。直接の原因は財政難だが、時代思潮も強い関係を持っていることを明らかにした。

『ヴェニスの商人』は、日本・中国を通じて最も人気のある作品であったが、中国の研究は『ヴェニスの商人』が清末・民国期に最も歓迎された事実は指摘しているが、なぜ歓迎されたか、その理由は明らかにしていない。この点について、日本との比較をおこなない、人肉裁判という伝奇性、裁判劇の要素、女性の能力発揮が主要な原因であると推定されることを明らかにした。

また、日本と中国の『ヴェニスの商人』受容は似通っているが、日本ではシャイロックの悲劇性への注目が薄かったのに対して、中国ではある時期からシャイロックの悲劇性が強く注目されている事実も明らかにした。

(3) 1937年の上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演に対する研究。

その研究成果は、日本現代中国学会第63回全国学術大会(2013年10月26日 福岡大学)での報告「上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演をめぐる」で公表した。

まず上海業余実験劇団の成立過程を分析し、この劇団が中国共産党が強く関与して成立した劇団であることを確認した。中国共産党系の左翼知識階層は、以前はシェイクスピア上演に否定的だったが、なぜ1937年段階でシェイクスピア上演に転じたかを中国共産党、コミンテルンの路線転換ともからめて解明した。上海業余実験劇団の活動は日中戦争勃発により1937年8月で終わり、シェイクスピア上演も『ロミオとジュリエット』だけに止まったが、上演予定広告から、戦争がなければ『ハムレット』など他のシェイクスピア作品も上演予定であったことを明らかにした。

続いて、上演時の劇評を分析し、これまで成功と言われてきたこの公演が、実はそうではなかったこと、スタニスラフスキー・システムの活用もかなり機械的なもので、シェイクスピア作品上演に対してはむしろマイナスに作用したことを明らかにした。

以上を通して、この公演の上演実態を明らかにするとともに、中国現代演劇史研究においては、いまだに基礎資料の発掘・整理が不十分で、新資料の発掘によりこれまでの定説がひっくりかえる可能性があることを明らかにした。

なおこの公演についての研究は瀬戸宏の体調不調などにより口頭発表に止まり論文文化していないが、まもなく論文として成果発表できる見通しである。

(4) 1942年の国立劇専『ハムレット』公演に対する研究。

この公演に対する研究成果は、「国立劇専

『ハムレット』上演をめぐる」(『未名』31号)にまとめられている。

まず抗日戦争期の国立劇専の状況を考察し、国立劇専がなぜ1942年に『ハムレット』を上演したかその理由は、国立劇専の中等教育機関から五年制の高等教育機関への改組にある可能性が強いことを明らかにした。

続いて、校長の余上沅、演出の焦菊隱の『ハムレット』に対する発言や上演プログラムを分析し、抗日戦争の現実を踏まえて彼らが『ハムレット』を上演したことを明らかにした。上演に対する劇評も、『ハムレット』の内容を抗日戦争の現実に関連づけて解釈している。一言でこの『ハムレット』上演の内容を整理すれば、抗日戦争の現実を反映した陰鬱さである。

また、この公演に対するニューヨーク・タイムズの劇評(重慶特派員が執筆、無署名)を紹介・分析し、西洋知識人の目からは奇怪と思われる部分もあり彼らにとっては説得力を欠く上演だったが、一定の質をもった公演であることは、同劇評からも伺えることを明らかにした。

#### (5) これ以外の研究

研究目的で述べた民国期の3つの上演に対する研究のほかにも、以下の関連研究をおこなった。

黎明期の中国シェイクスピア受容に関する研究をおこなった。この研究成果は、「中国シェイクスピア受容の黎明」(『撰大人文学』19号)にまとめられている。中国の文献にシェイクスピアの名が現れるのは通説で言われていた1856年ではなく1844年であることを、近年の研究に基づき指摘した。さらに、ラム『シェイクスピア物語』翻訳によるシェイクスピア紹介や初期の中国でのシェイクスピア上演についても、状況を整理し、その内容を紹介した。

戯曲(中国伝統演劇)によるシェイクスピア上演についての研究。この研究成果は、近現代演劇研究会(日本演劇学会分科会 2013年7月6日)での口頭発表「中国伝統演劇によるシェイクスピア上演 昆劇『血手記』と越劇『十二夜』を中心に」で公表した。物語を中国に置き換え昆劇の手法で上演した『血手記』とシェイクスピア原作をほぼ忠実に越劇化した『十二夜』を主に検討し、その上演意図が伝統演劇の危機を救おうとすることにあること、これが伝統演劇と言えるか、これがシェイクスピアと言えるか、などの議論を呼んだことなどを紹介した。この研究は現時点では論文化されていないが、近く論文にまとめる予定である。

中国の研究界との学术交流をおこなった。2011年12月10日、中国シェイクスピア受容史研究の代表的研究者である曹樹鈞氏(上海戲劇学院教授)を日本に招き、早稲田大学演劇博物館で特別講義「中国の舞台におけるシ

ェイクスピアの伝播と受容」をおこなった。質疑応答とその後の交流には、中国語を解しない一般的シェイクスピア研究者も参加し、日中学术交流の上でたいへん有益であった。

中国での関連学会・シンポジウムへの参加、論文発表。科研費期間中に、別項の学会発表にみられるように三回にわたって中国での学会等で論文発表、講演をおこなった。また中国の学術誌に関連論文が掲載された。学术交流上たいへん有益であった。

#### (6) 研究成果の総括

申請時に掲げた研究目標をほぼ達成することができた(上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演に対する研究のみ、論文化が成果報告書締切時に間に合わなかったが、これも近く論文化できる見込みである)。また、それ以外の中国シェイクスピア受容史についての関連研究もおこなうことができた。当初の予想を上回る極めて大きな成果をあげたということができよう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

瀬戸宏 論上海戲劇協社の《威尼斯商人》演出  
(《四川戲劇》2014年1期 p25-p29 四川省川劇芸術研究院 2014.1) 査読有り

瀬戸宏 国立劇専与莎士比亚的演出 - 以第一次公演《威尼斯商人》为中心  
(陳晶訳、王賀校 《現代中文学刊》 2013年第五期 p65-p71 華東師範大学 2013.10.8) 査読有り

瀬戸宏 上海戲劇協社『ヴェニス商人』上演をめぐる  
(『演劇学論集 日本演劇学会紀要』57 p21-p37 2013年秋) 査読有り

瀬戸宏 国立劇専『ハムレット』上演をめぐる  
(『未名』31号 p37-p54 中文研究会 2013.3) 査読無し

瀬戸宏 中国シェイクスピア受容の黎明  
(『撰大人文学』19号 撰南大学外国語学部 2012.2) 査読無し

[学会発表](計7件)

瀬戸宏 日本莎士比亚接受簡史(中国語)  
四川外国語大学 2014年3月4日 \*特別講義

瀬戸宏 論戲劇協社《威尼斯商人》演出(中国語)  
第三屆武漢大学莎士比亚國際學術研討会

2013年11月16日 中国・武漢大学

瀬戸宏 上海業余実験劇団『ロミオとジュリエット』公演をめぐって  
\*上海業余話劇実験劇団『ロミオとジュリエット』公演をめぐって、の題名を当日訂正  
日本現代中国学会第63回全国学術大会  
2013年10月26日 福岡大学

瀬戸宏 中国伝統演劇によるシェイクスピア上演 昆劇『血手記』と越劇『十二夜』を中心に  
近現代演劇研究会(日本演劇学会分科会)  
2013年7月6日 大阪大学中之島センター

瀬戸宏 中国・国立劇専『ハムレット』公演(1942)について  
日本比較文学会第48回関西大会 2012年11月17日 立命館大学衣笠校舎

瀬戸宏 国立劇専与莎士比亚演出 - 以《威尼斯商人》為主(中国語)  
紀念朱生豪誕辰一百年学術研討会 2012年10月29日 中国嘉興・沙龍国際酒店

瀬戸宏 上海戯劇協社『ベニスの商人』について  
日本演劇学会全国大会 2012年6月16日 近畿大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
中国シェイクスピア受容史研究  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ir8h-st/shakespeare.htm>

6. 研究組織

(1)研究代表者  
瀬戸宏 (SETO Hiroshi)  
摂南大学・外国語学部・教授  
研究者番号：80187864

(2)研究分担者  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：